



特集

水害から自分の命を守るために

上記写真は、平成28年8月の豪雨で発生した上トママ地区の土砂崩れの現場です。北海道に接近・上陸した4つの台風の影響で、道東地区を中心に記録的な大雨となりました。また、南富良野町では空知川の堤防が決壊。広い範囲で浸水・橋梁損傷など甚大な被害が発生しました。

占冠村は大きな水害が発生する地域です。自らの命を守るために、防災について考えましょう。



▲昭和37年の水害。堤防が決壊し濁流が押し寄せました



▲ワイヤーで一人ひとり救助される様子です



▲昭和37年8月の大水害の様子。役場が浸水。

昭

和37年8月、罹災戸数324戸、罹災人員1484名、死者3名、負傷者1名、被害総額約12億円に上る大水害が占冠村を襲いました。この水害は、交通上・通信上も村と他の町村を断絶し、さらに、取り付け道路を決壊させるなどして、上トママ地区、下トママ地区、中央地区、字占冠地区、双珠別地区、ニニウ地区の6つの集落を孤立させました。避難命令を知らせるサイレンは停電により鳴らず、半鐘を打ち鳴らすほかに伝達

の手段はありませんでした。水害誌『しむかつぶの水害』には、『避難者は腰の高さまである水の中を手で漕ぎながら逃げた』、『家や薪小屋は目前で流され、馬は水に吸い込まれていった』などと記録されており、この大水害の凄惨さを物語っています。

平成28年8月17日～31日までに、北海道に4個の台風が上陸・接近しました。この台風は、道内で『堤防の決壊』『浸水』『橋梁の倒壊』『農業被害』など様々な被害をもたらしました。これらの影響により、

隣町の南富良野町では、空知川の堤防が2箇所決壊し、川の氾濫により、住家約189戸、食品加工工場等が浸水しました。南富良野町では、避難指示から時間が経過した後に行動を開始したために避難所にたどり着けず、氾濫した川から逃れようと車の屋根に取り残された人もいるそうです。この台風の影響で、占冠村トママ地区でも大きな土砂崩れが発生しています。

『自助』から『共助』につなげる。避難の判断を人任せにしない。

自分の命を守るためには、正しい知識が必要です。一瞬の判断が生死を左右する緊急事態。避難の判断を人任せにしないようにしましょう。自分の命を自ら守る『自助』、地域の人々で助け合う『共助』、行政や消防等による救助や援助活動を行う『公助』。まずは自分が助からないと、家族や友人・隣人を助ける『共助』につながりません。

占冠村は大きな水害が発生する地域です。災害は忘れたころにやってくる。私たちは、起こりえる災害に常に備えておく必要があります。

9月1日は防災の日。自分の身を守るためにできることを、今月はお伝えします。